

井上通信

No.22

皆様におかれましては、連日厳しい暑さが続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。太陽の光を一身に受けて育つ夏野菜がより一層、美味しく感じられる季節となりました。

さて、当社ではこの夏、その太陽が育む高知のトマトの未来に向けた、まさに熱い取り組みをスタートいたしました。7月5日(土)、高知県内のトマト生産者や関連事業者の方々をお招きし、「高知トマトコミュニティ」のキックオフとなる決起集会を当社、山北事業所にて開催いたしました。このコミュニティは、フルーツトマト発祥の地でありながら、その魅力が十分に伝わっていないという課題に対し、生産者の垣根を越え、トマト王国高知のブランド価値向上を目指す新たな挑戦です。当日は、志を同じくするトマト生産者20名以上の方々にご参加いただき、会場は熱気に包まれました。それぞれの立場から高知のトマトが持つ可能性や、産地が抱える課題について真剣な意見交換が行われ、「皆で知恵を出し合い、素晴らしいトマトを皆に知ってもらいたい」といっ

た力強い声が上がりました。当社は、本コミュニティのハブとして、皆様の想いをつなぐ役割を担ってまいります。今後の高知トマトコミュニティの活動にご期待ください。

田村執行役員の一言

昨年、弊社は創業140周年を迎えました。この節目の年に立ち会えたことをうれしく思うとともに、これからの歩みにも思いを馳せています。今年は大阪・関西万博が開催され、未来に向けて世の中が動き出す年。弊社の工場移転も進むなか、私たちも時代の変化を楽しみながら、新しい価値づくりに挑んでいけたらと思います。



井上のお石灰な話

INOUEの思い出編

- 在職時の思い出や覚えていらっしゃることを教えてください -

はじめは女工さんばかりで、20人くらいはおりました。本当に力仕事はえらかったと思います。今の人だったら絶対ようせんです。ときどきどこかの工場に勤めている人の奥さんが入ってきても、一日やって身体が動かなくなったと言ってみんな辞めました。

20キロの袋をどんどん積まないといけないから、えらかったです。

(昭和46～52年在職 山本 文子さん談)



今年の梅雨は平年より二十日ほど早く6月27日ごろに明けました。降水量は平年比100%を超えて梅雨期間は短かつたものの雨はしっかりと降った様です。生育については、2月の低温で開花が遅れましたが、その後の高温で生育も追い付き追いついた圃場も出てきました。さて7月1日から2024 Vinのワインのリリースが続々と始まりました。昨年も7月は雨が少なく糖度も上がって良いブドウを収穫することができ、良いヴィンテージに仕上がったと思います。今年でブドウ栽培を初めて14年、自社醸造開始から5年目となります。今年のブドウの様子を窺いながら、仕込みシーズンを迎えるこの時期は不安も期待もある複雑な時期です。

よっちょれ!よっちょれ!

土佐の方言紹介

「よっちょれ」

【意味】寄っていない、避けて

【説明】よさこい祭りや、音楽を流す地方車(じかたしや)が通る際に、観客に踊るための道を空けてもらうための掛け声として使われます。力強い響きの中にも、観客への配慮が感じられる言葉です。祭りの熱気と、土佐人の温かさが同居した、よさこい祭りには欠かせない一言です。



井上ワイナリー だより